

文化庁委託事業

平成 30 年度

劇場・音楽堂等基盤整備事業

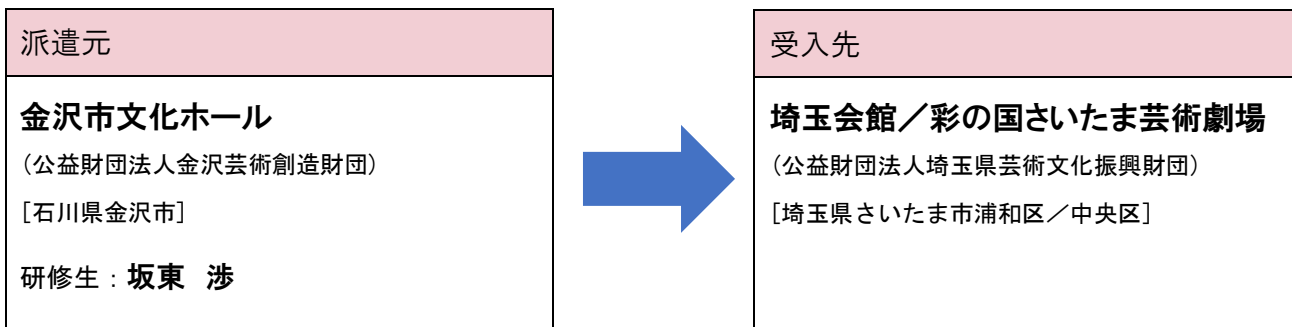
スタッフ交流研修事業

（国内交流研修事業）

報告書

公益社団法人全国公立文化施設協会

スタッフ交流研修事業（実務者派遣事業） 報告



研修期間

平成 30 年 7 月 27 日（金） ～ 平成 30 年 8 月 4 日（土）のうち 計 8 日間

研修概要

埼玉会館、彩の国さいたま芸術劇場の舞台関係設備とその運用について見聞し、自館での運営に役立つと思われる事柄について理解を深める。また、音響についての基本的な機器操作手順と音響スタッフとしての心得を、実際の現場の中で体得する。

日程・実施内容

実施日	内容
7月27日	【埼玉会館】 施設概要の理解 夏休みオーケストラランド 仕込み 作業補助
7月28日	【埼玉会館】 夏休みオーケストラランド リハーサル、本番、撤収 作業補助、公演立会い
7月30日	【埼玉会館】 シネマスタジオ 試写 作業補助 デジタル音響操作卓の理解
7月31日	【埼玉会館】 舞踊コンクール 仕込み、本番 貸館時の対応
8月1日	【彩の国さいたま芸術劇場】 施設概要の理解、設備機器の理解 ゴールド・アーツ・クラブ 稽古視察
8月2日	【埼玉会館】 シネマスタジオ 仕込み、本番、撤収 作業補助、上映立会い
8月3日	【彩の国さいたま芸術劇場】 オックスフォード大学「十二夜」 打合せ立会い プロムナードコンサート 仕込み 作業補助
8月4日	【彩の国さいたま芸術劇場】 プロムナードコンサート リハーサル、本番、撤収 作業補助、公演立会い

研修生の所感

金沢市文化ホール 坂東 渉

■研修の目的

私は金沢市文化ホールで照明担当の技術職員として勤務している。最近では、ホールの運営の中心となる事が求められ、舞台全般の知識や技術が必要となってきた。しかし、入社以来主に照明を担当していたので音響に対する知識が乏しい。そのため、スタッフ交流研修を受ける事により、音響についての基本的な機器の役割や操作方法を学び、催し物に立会う事で音響スタッフとしての動き方を体得し、今後のホールの運営に役立てたい。

■研修の内容

今回の研修では、まず、埼玉会館の大ホールにて自主事業である夏休みオーケストラの公演の仕込み、リハーサル、本番を音響スタッフの作業補助という形で参加した。舞台は反響板を半分使用し、オーケストラピットを舞台面まで上げて使用した。音響設備は、トーク用にワイヤレスマイク3本、3点吊に収録用のマイクをセッティングした。リハーサル中は演奏とトークが被る時のマイクの音量の調整を行い、客入れ時はロビー周りのカゲアナのレベルを確認した。

次に、シネマスタジオの試写及び上映では小ホールでスクリーンを吊り込み、スピーカーはL・C・Rとサブの4台仕込んだ。試写では、音量の調整の仕方など学んだ。映像はハードディスクのデータをプロジェクターに取り込んで映すというシステムで、自館にはないシステムだった。

舞踊コンクールは、貸館の催し物であり、乗り込み業者との打合せに立会い、どのようなやりとりを行っているか体験させてもらった。

彩の国さいたま芸術劇場では、劇場内にあるオープンスペースで行われるプロムナードコンサートというオルガンとダンスがコラボレーションした公演があり、音響スタッフとともに仕込みを行った。トーク用にワイヤレスマイク、オルガンにピンマイクを仕込み、スピーカーは小さい物を多数目立たない様に仕込んだ。持ち出し用のミキサーとアンプ等に繋ぎ音量の調整を行った。

施設概要の理解としては、埼玉会館ではホールとしては大ホールと小ホールの2つがあり、技術スタッフは全て外部委託の業者が入っていた。ここは貸館が中心で利用率も高いそうである。彩の国さいたま芸術劇場では大ホール、小ホール、音楽ホール及び映像ホールと様々な形態のホールが存在し、ここでは自主事業が多数行われているそうである。技術スタッフは財団の職員と外部委託の業者で運営していた。

設備機器の理解としては、各ホールに設置されている音響機器の説明を受け、その機器の役割を学んだ。また、デジタル音響操作卓の基本的な操作方法を学び、実際に操作してみた。

■研修で得られた成果

この研修では、自主事業や貸館事業といった違う形態での催し物、また、埼玉会館と彩の国さいたま芸術劇場という性質の異なる会館での様々な催し物を体験する事で、それぞれの立場での音響スタッフとしての動き方というものを学んだ。また、仕込みからリハーサル、本番という流れを音響スタッフと行動を共にする事で、今何をすべきか、また、何に気を付けなければいけないかという事を学んだ。

■研修で得た成果をどのように活かしていくか

今回の研修で、音響スタッフの動き方を理解できたので、自分が中心となりホールを運営していく上で広い目で見ることができると思う。また、埼玉会館や彩の国さいたま芸術劇場で行っていた良い所を私達の財団の技術スタッフに伝える事で、私だけでなく財団全体のスキルをアップさせて行きたいと思う。

また、デジタル音響操作卓を実際に触ってみた事で、今までは複雑過ぎて敬遠しがちだった事が基本的な操作を学ぶ事で少し身近に感じられるようになったので、今後自館に戻ってからさらに理解を深めて行きたいと思う。

受入施設より

埼玉会館／彩の国さいたま芸術劇場 山海 隆弘

舞台スタッフとしてはキャリア十分にもかかわらず、今後はより上の立場になることを自覚して、自分の専門以外の音響についても学びたいとの意欲を持って来館。埼玉会館とさいたま芸術劇場では設置目的が違うのでスタッフの姿勢も自ずと違ってきますが、そんな両館で、謙虚な姿勢で熱心に現場スタッフの中で経験を積まれていました。これが、金沢市文化ホールがスタッフワークも含めてますます発展される一助になれば幸いです。